

令和6年9月定例記者会見要旨(令和6年9月27日)

**1. 瀬戸内国際芸術祭の春会期開催まであと半年となったが、現在の準備状況や今回の瀬戸内国際芸術祭に期待することをお聞きしたい。**

瀬戸内国際芸術祭2025春会期が来年4月18日から5月25日までの38日間の日程で開催され、本市も参加いたします。現在、作品の候補地の視察や情報収集への協力など準備を進めているところであります。

今回の瀬戸内国際芸術祭2025では、会場名を「沙弥島会場」から「瀬戸大橋エリア」へと名称を変え、沙弥島、与島での継続展開に加えて、新たに瀬居島が会場に加わることが決定しております。かつての海洋文化から瀬戸大橋開通や埋め立て等による暮らしの変化などを作品で表していただけたらと考えております。

エリア追加に伴う新たな作品の展開に期待しつつ、駐車場の確保や臨時シャトルバスの増設など、交通の面での受入環境整備を順次進めていくほか、坂出市観光協会と連携し、本市にゆかりのあるアーティストの作品を市内飲食店等に会期中に展開し、誘客を促すことで、芸術祭のにぎわいを市内全域に波及させる取り組みを検討しております。

また、本市では、観光情報誌「るるぶ坂出版」を現在制作しているところであり、本年12月に完成予定であります。「るるぶ坂出版」を芸術祭会場にも設置し、実際手に取っていただくことで、会場に訪れたかたが、坂出市内で周遊いただけるよう努めてまいります。

前回は、コロナ禍での開催でありましたので、「食」の提供等が難しく、断念したコンテンツも多々ございましたが、瀬戸内国際芸術祭2025は、多くのかたにご来場いただき、満足していただけるよう、地元ならではの食の提供やオープニングイベントの企画等につきまして、今後、坂出市実行委員会にて協議し、注力して実施してまいりたいと考えております。